



2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年2月5日

上場会社名 AZ-COM丸和ホールディングス株式会社
コード番号 9090 URL <https://www.az-com-maruwa-hd.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 和佐見 勝
問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員 (氏名) 葛野 正直 TEL 048(991)1000
四半期報告書提出予定日 2024年2月13日 配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無: 無
四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	150,128	12.6	11,573	33.7	12,066	32.9	7,436	18.5
2023年3月期第3四半期	133,291	37.3	8,653	27.7	9,079	27.5	6,274	23.2

(注) 包括利益2024年3月期第3四半期 8,405百万円 (4.3%) 2023年3月期第3四半期 8,058百万円 (71.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	58.74	54.63
2023年3月期第3四半期	49.89	46.19

(注) 前連結会計年度末において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2023年3月期第3四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の見直しが反映された後の金額となっています。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	135,075	55,916	39.7
2023年3月期	112,028	38,162	32.1

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 53,558百万円 2023年3月期 35,917百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	-	11.75	-	11.75	23.50
2024年3月期	-	15.00	-	-	-
2024年3月期（予想）	-	-	-	15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	200,000	12.5	14,500	27.6	15,000	25.5	9,380	20.6	72.91

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2024年3月期3Q	137,984,520株	2023年3月期	128,952,320株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	3,094,844株	2023年3月期	3,102,779株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2024年3月期3Q	126,593,991株	2023年3月期3Q	125,764,170株

(注) 期末自己株式数及び期中平均株式数の算定上控除する自己株式数には、役員向け株式給付信託及び株式給付型ESOPの信託財産として保有する当社株式346,288株を含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	9
(企業結合等関係)	10
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、社会経済活動の正常化が進み、景気は回復基調となりました。一方で、原材料価格やエネルギー価格の上昇が続くなど、先行きは依然として不透明な状況となっております。

物流業界におきましては、消費貨物量が軟調に推移したことに加え、労働力確保のためのコスト上昇、物流の2024年問題におけるドライバー不足が懸念されるなど、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような環境のもと当社グループは、コアとなるEC物流、低温食品物流、医薬・医療物流の各ドメインにおける業容拡大と、深刻化する人材及び稼働車両不足の状況下における事業拡大に資する人材の確保・育成、DX化の推進と適用による省人化・省力化、生産性向上に努めております。また、更なる事業拡大のため、経営資源を適正に配分し、成長事業への集中投資と低収益事業の再生・再編による経営の効率化を図るとともに、ESG経営にも積極的に取り組み、経済価値を最大化すると同時に社会的価値の創出を目指してまいります。

以上の結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間における経営成績は、売上高150,128百万円（前年同四半期比12.6%増）、営業利益11,573百万円（同33.7%増）、経常利益12,066百万円（同32.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益7,436百万円（同18.5%増）の増収増益となりました。

セグメント別の業績は次のとおりです。

① 物流事業

<輸配送事業>

(ラストワンマイル事業)

ラストワンマイル事業においては、新規配送エリア獲得及び稼働台数の拡大が業績に寄与した結果、売上高は28,656百万円（前年同四半期比6.5%増）となりました。

(EC常温輸配送事業)

EC常温輸配送事業においては、成長するEC需要に対応する全国向け幹線輸送の増加が業績に寄与した結果、売上高は46,095百万円（前年同四半期比7.4%増）となりました。

<3PL事業>

(EC常温3PL事業)

EC常温3PL事業においては、大型物流センターの通期稼働及び新規物流センターの開設に加え、㈱M・Kロジの連結子会社化が寄与した結果、売上高は40,592百万円（前年同四半期比29.6%増）となりました。

(低温食品3PL事業)

低温食品3PL事業においては、前期開設した物流センターをはじめ、既存物流センターにおける業務拡大や新たなスーパーマーケットの業務獲得が寄与した結果、売上高は16,593百万円（前年同四半期比11.1%増）となりました。

(医薬・医療3PL事業)

医薬・医療3PL事業においては、主要取引先であるドラッグストアをはじめとする既存取引先にて、医薬品や化粧品等の主力商品を中心に出荷物量の増加が業績に寄与した結果、売上高は16,277百万円（前年同四半期比5.5%増）となりました。

以上の結果、物流事業における売上高は148,214百万円（前年同四半期比12.7%増）の増収となりました。

利益面では、新規物流センターの安定稼働に係る一時的な先行費用が影響したものの、積極的な事業拡大に伴う増収効果、日次決算マネジメントによる生産性向上に努めた結果、物流事業におけるセグメント利益（営業利益）は11,540百万円（前年同四半期比38.3%増）の増益となりました。

② その他

フェイスホールディングス㈱における情報システム事業の拡大及び㈱アズコムデータセキュリティのBPO（ビジネス・プロセス・アウトソーシング）に係る案件開発に努めたものの、人件費をはじめとする各種コストの上昇が影響した結果、売上高は1,913百万円（前年同四半期比7.3%増）、セグメント利益（営業利益）は285百万円（同3.9%減）の増収減益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、135,075百万円となり、前連結会計年度末に比べ23,047百万円増加いたしました。流動資産は73,633百万円となり、19,069百万円増加いたしました。この主な要因は、現金及び預金が12,649百万円、受取手形及び売掛金が5,308百万円増加したことあります。また、固定資産は61,442百万円となり、3,978百万円増加いたしました。この主な要因は、建物及び構築物(純額)が2,347百万円、投資有価証券が921百万円増加したことあります。

負債につきましては、79,159百万円となり、前連結会計年度末に比べ5,293百万円増加いたしました。流動負債は33,906百万円となり、3,998百万円増加いたしました。この主な要因は、支払手形及び買掛金が2,835百万円増加したことあります。また、固定負債は45,252百万円となり、1,294百万円増加いたしました。この主な要因は、長期借入金976百万円増加したことあります。

純資産につきましては、55,916百万円となり、前連結会計年度末に比べ17,754百万円増加いたしました。この主な要因は、公募増資及び第三者割当増資に伴い、資本金及び資本剰余金がそれぞれ6,447百万円増加したことによるものであります。その他として、利益剰余金が4,060百万円増加したことあります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2023年11月6日に公表いたしました連結業績予想からの変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	32,851	45,501
受取手形及び売掛金	19,474	24,783
貯蔵品	115	82
その他	2,126	3,270
貸倒引当金	△4	△3
流動資産合計	54,563	73,633
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,221	10,569
機械装置及び運搬具(純額)	2,285	2,268
土地	15,004	15,020
その他(純額)	5,222	5,861
有形固定資産合計	30,734	33,719
無形固定資産		
のれん	3,656	3,364
その他	7,345	6,982
無形固定資産合計	11,002	10,347
投資その他の資産		
投資有価証券	10,439	11,360
その他	5,329	6,024
貸倒引当金	△41	△9
投資その他の資産合計	15,727	17,375
固定資産合計	57,464	61,442
資産合計	112,028	135,075
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,278	15,113
短期借入金	315	30
1年内返済予定の長期借入金	4,870	5,064
未払法人税等	2,902	2,762
賞与引当金	922	222
その他	8,618	10,713
流動負債合計	29,907	33,906
固定負債		
社債	30	25
転換社債	20,586	20,421
長期借入金	15,370	16,346
退職給付に係る負債	1,077	1,134
資産除去債務	798	814
役員株式給付引当金	39	38
従業員株式給付引当金	53	50
役員退職慰労引当金	54	60
その他	5,946	6,359
固定負債合計	43,957	45,252
負債合計	73,865	79,159

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,670	9,117
資本剰余金	2,348	8,803
利益剰余金	33,781	37,842
自己株式	△5,757	△5,755
株主資本合計	33,044	50,008
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,082	3,727
退職給付に係る調整累計額	△208	△177
その他の包括利益累計額合計	2,873	3,549
非支配株主持分	2,244	2,358
純資産合計	38,162	55,916
負債純資産合計	112,028	135,075

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	133,291	150,128
売上原価	118,686	131,501
売上総利益	14,605	18,626
販売費及び一般管理費	5,951	7,053
営業利益	8,653	11,573
営業外収益		
受取利息	166	166
受取配当金	112	197
固定資産売却益	73	42
受取和解金	—	100
その他	149	276
営業外収益合計	501	783
営業外費用		
支払利息	31	53
シンジケートローン手数料	23	204
その他	21	32
営業外費用合計	75	290
経常利益	9,079	12,066
特別利益		
負ののれん発生益	349	—
固定資産売却益	—	58
特別利益合計	349	58
特別損失		
出資金評価損	75	—
固定資産売却損	—	6
特別損失合計	75	6
税金等調整前四半期純利益	9,353	12,117
法人税等	2,854	4,387
四半期純利益	6,498	7,729
非支配株主に帰属する四半期純利益	224	293
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,274	7,436

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	6,498	7,729
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,525	644
退職給付に係る調整額	33	31
その他の包括利益合計	1,559	675
四半期包括利益	8,058	8,405
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,833	8,112
非支配株主に係る四半期包括利益	224	293

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は2023年11月20日開催の取締役会決議に基づき、当第3四半期連結会計期間において公募による新株式発行（一般募集）及び第三者割当による新株式発行（オーバーアロットメントによる売出しに伴う第三者割当）を行いました。このため、2023年12月6日を払込期日とする公募による7,550,000株の新株式（普通株式）発行により、資本金及び資本準備金が5,389百万円ずつ増加いたしました。また、2023年12月27日を払込期日とする第三者割当による1,482,200株の新株式（普通株式）の発行（オーバーアロットメントによる売出しに伴う第三者割当）により、資本金及び資本準備金が1,057百万円ずつ増加しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本金が9,117百万円、資本準備金が8,632百万円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	物流事業				
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	131,507	1,784	133,291	—	133,291
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	92	302	395	△395	—
計	131,600	2,086	133,686	△395	133,291
セグメント利益	8,342	296	8,639	13	8,653

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、文書保管庫の賃貸事業、不動産賃貸事業及び情報システム事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメントに帰属しない持株会社に係る損益であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、「注記事項(企業結合等関係)」の「比較情報における取得原価の当初配分額の重要な見直し」に記載の暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直し反映された後の金額となっております。

(重要な負ののれん発生益)

前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、「注記事項(企業結合等関係)」の「企業結合に係る暫定的な会計処理の確定」による取得原価の当初配分額の重要な見直し反映された後の金額となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	物流事業				
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	148,214	1,913	150,128	—	150,128
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	33	305	339	△339	—
計	148,247	2,219	150,467	△339	150,128
セグメント利益	11,540	285	11,825	△252	11,573

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、文書保管庫の賃貸事業、不動産賃貸事業及び情報システム事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメントに帰属しない持株会社に係る損益であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(企業結合等関係)

(比較情報における取得原価の当初配分額の重要な見直し)

2022年3月29日に行われたファイブホールディングス㈱との企業結合について前第3四半期連結会計期間において暫定的な会計処理を行っていましたが、前連結会計年度末に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されており、暫定的に算定されたのれんの金額2,996百万円は、会計処理の確定により1,560百万円減少し、1,436百万円となりました。のれんの金額の減少は、無形固定資産(顧客関連資産)が4,293百万円、繰延税金負債が1,273百万円、非支配株主持分が1,110百万円増加し、その他固定資産が349百万円減少したことによります。

この結果、前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書は、販売費及び一般管理費が95百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益がそれぞれ95百万円増加し、四半期純利益が150百万円増加し、非支配株主に帰属する四半期純利益が44百万円減少し、親会社株主に帰属する四半期純利益が195百万円増加しております。

(比較情報における取得原価の当初配分額の重要な見直し)

2022年7月29日に行われた㈱M・Kロジとの企業結合について前第3四半期連結会計期間において暫定的な会計処理を行っていましたが、前連結会計年度末に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されており、暫定的に算定されたのれんの金額3,498百万円は、会計処理の確定により1,525百万円減少し、1,972百万円となりました。のれんの金額の減少は、無形固定資産(顧客関連資産)が2,321百万円、繰延税金負債が795百万円増加したことによります。

この結果、前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書は、販売費及び一般管理費が6百万円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益がそれぞれ6百万円減少し、四半期純利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益が7百万円増加しております。

(企業結合に係る暫定的な会計処理の確定)

2022年10月4日に行われた㈱東海丸和ロジスティクス(旧会社名 ㈱ドラゴン)との企業結合について前第3四半期連結会計期間において暫定的な会計処理を行い、負ののれん発生益として349百万円を計上していましたが、当第3四半期連結会計期間に確定しております。

なお、この暫定的な会計処理の確定に伴う負ののれん発生益の金額に変更はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。